

資 料 2

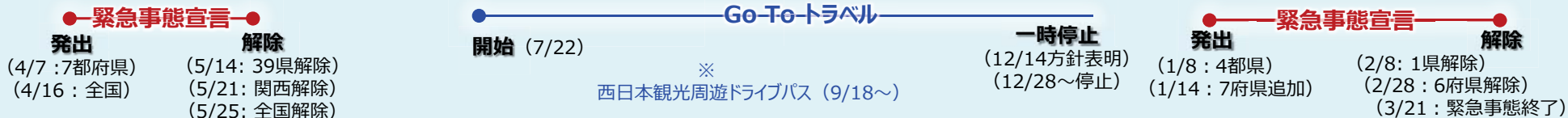
～新型コロナによる本四交通量への影響について～

交通量の月変動状況	・ ・ ・	P 2
新型コロナウイルスによる 本州四国連絡橋交通量への影響	・ ・ ・	P 5

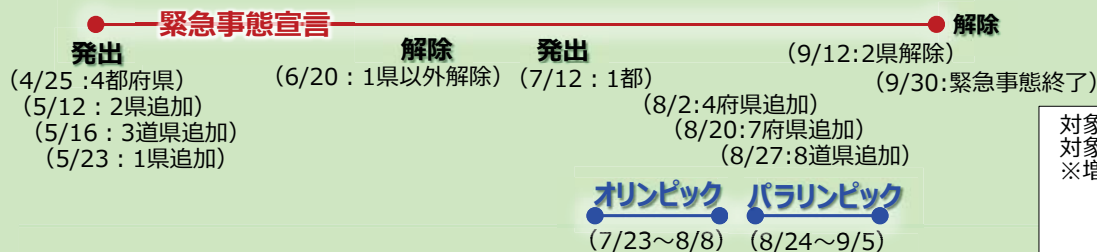
本四間交通量の月変動【県境3橋計】

- 本四間の交通量は、R1年度まで**増加傾向** R2年度は**新型コロナウイルスの影響**により**大幅減**。
- R3年度は、緊急事態宣言発出・解除に伴う増減を経た後、**年末にかけR1程度に回復傾向**であったが、**1月にはオミクロン株の感染拡大**を受け**回復が鈍化**。

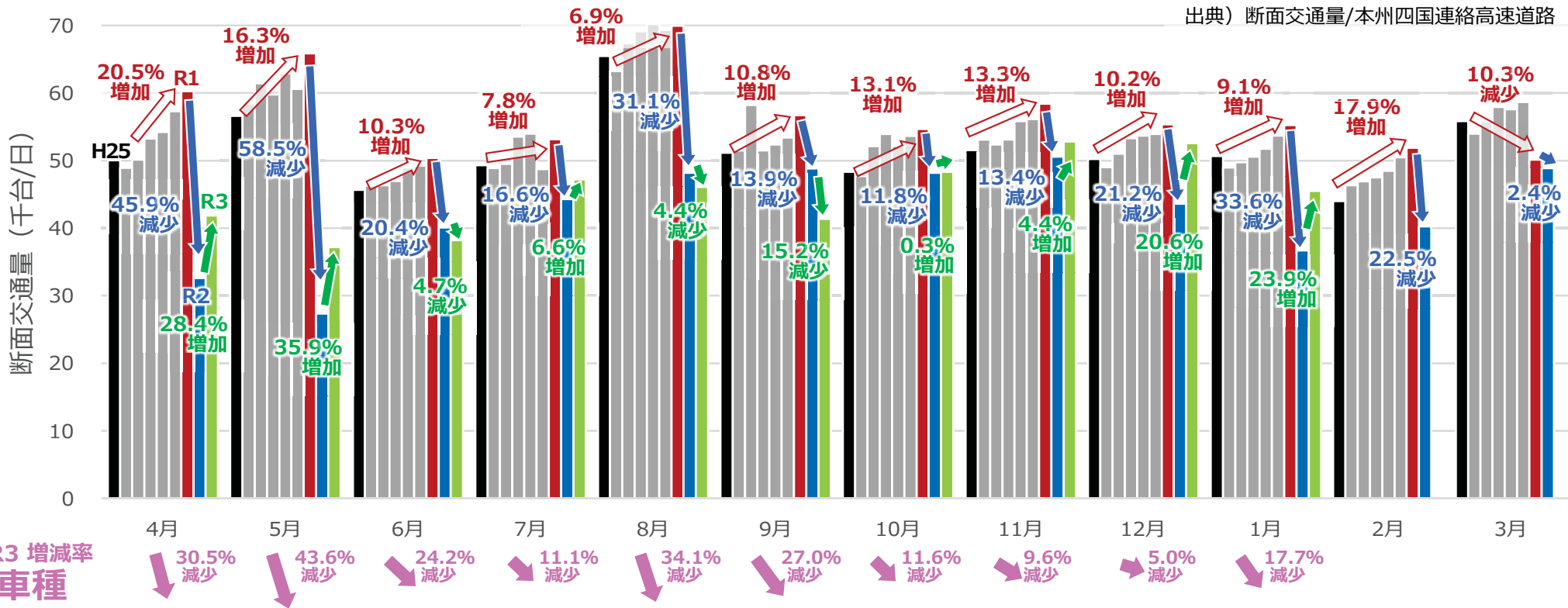
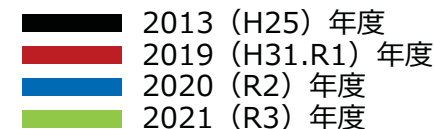
2020年度



2021年度



対象車両：全車種
対象日：全日
※増減率 桃字：2021年度/2019年度
緑字：2021年度/2020年度
青字：2020年度/2019年度
赤字：2019年度/2013年度



【観光】小型車交通量の月変動【県境3橋計】

- 観光交通を主体とする小型車は、R2年度は**新型コロナウイルスの影響**により**大幅減**。
- R3年度**は、全車種同様の増減傾向を示し、1月は R1比 **-28.1%**と**回復傾向が大きく鈍化**。

2020
年度

●緊急事態宣言●
発出 (4/7: 7都府県) (4/16: 全国)
解除 (5/14: 39県解除) (5/21: 関西解除) (5/25: 全国解除)

●Go-Toトラベル●
開始 (7/22) ※ 西日本観光周遊ドライブパス (9/18~)
一時停止 (12/14方針表明) (12/28~停止)

●緊急事態宣言●
発出 (1/8: 4都県) (1/14: 7府県追加)
解除 (2/8: 1県解除) (2/28: 6府県解除) (3/21: 緊急事態終了)

2021
年度

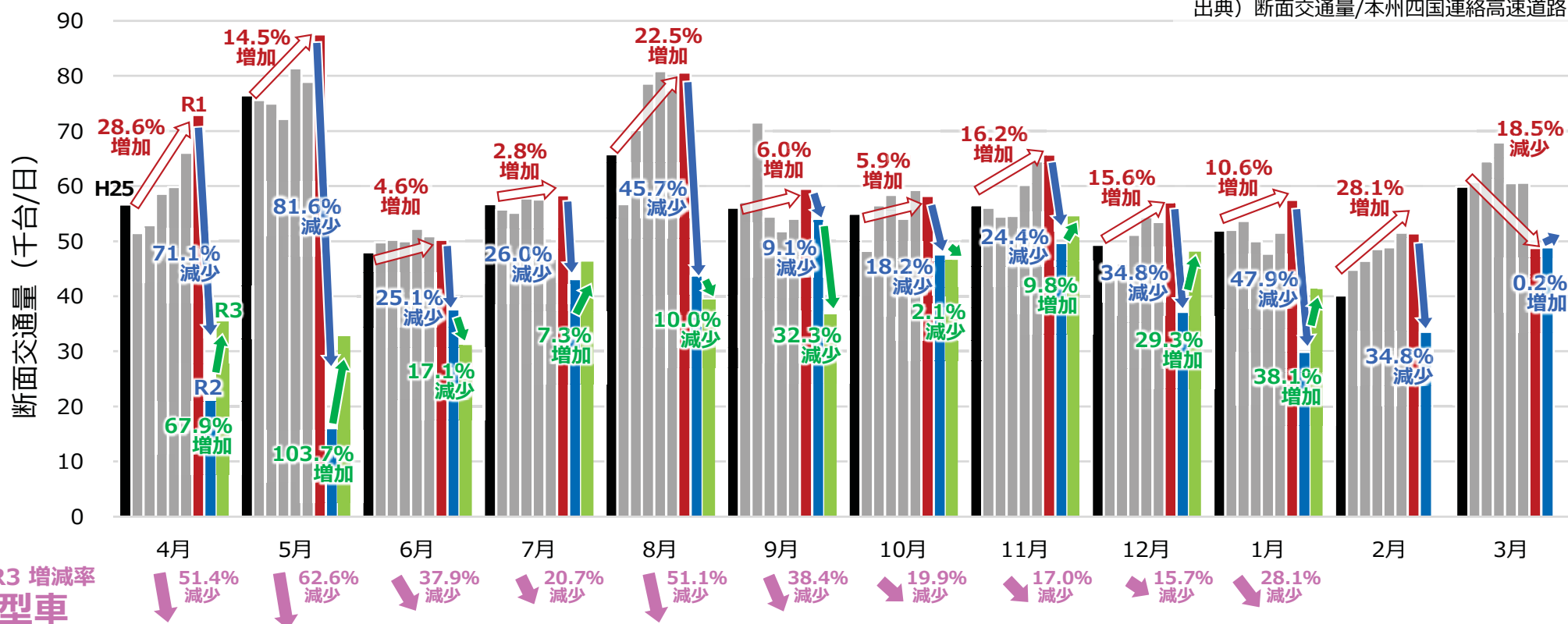
●緊急事態宣言●
発出 (4/25: 4都府県) (5/12: 2県追加) (5/16: 3道県追加) (5/23: 1県追加)
解除 (6/20: 1県以外解除) (7/12: 1都) (8/2: 4府県追加) (8/20: 7府県追加) (8/27: 8道県追加) (9/12: 2県解除) (9/30: 緊急事態終了)

●オリンピック● (7/23~8/8)
●パラリンピック● (8/24~9/5)

対象車種: 普通車+軽自動車
対象日: 土日祝
※増減率
桃字: 2021年度/2019年度
緑字: 2021年度/2020年度
青字: 2020年度/2019年度
赤字: 2019年度/2013年度

2013 (H25) 年度
2019 (H31.R1) 年度
2020 (R2) 年度
2021 (R3) 年度

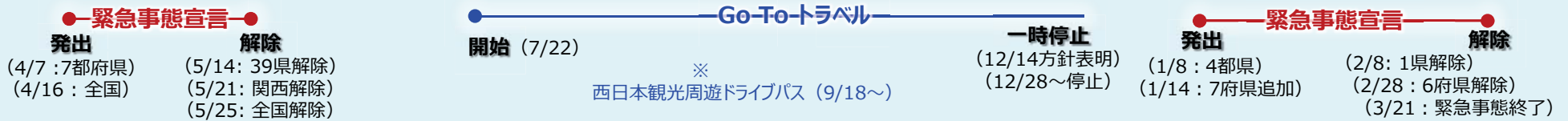
出典) 断面交通量/本州四国連絡高速道路(株)



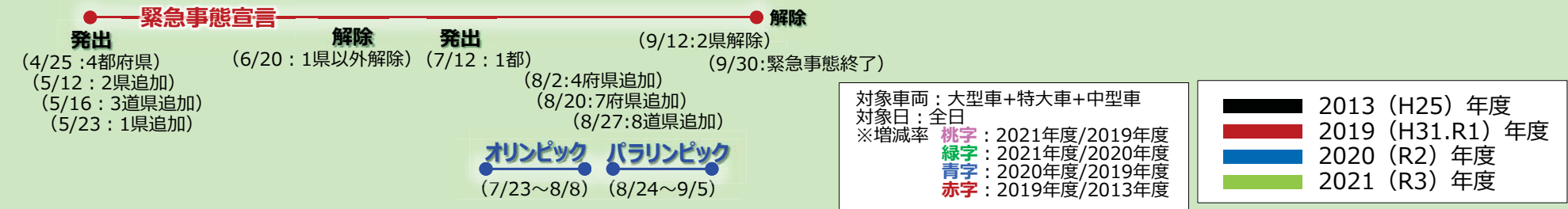
【産業】大型車（バス+トラック）交通量の月変動【県境3橋計】

- 物流交通を主体とする大型車は、R2年度は新型コロナウイルスの影響により**微減**。
- 新型コロナウイルスの影響を**大きく受けておらず**、オミクロン株の感染拡大に対しても**同様の傾向を示す**。

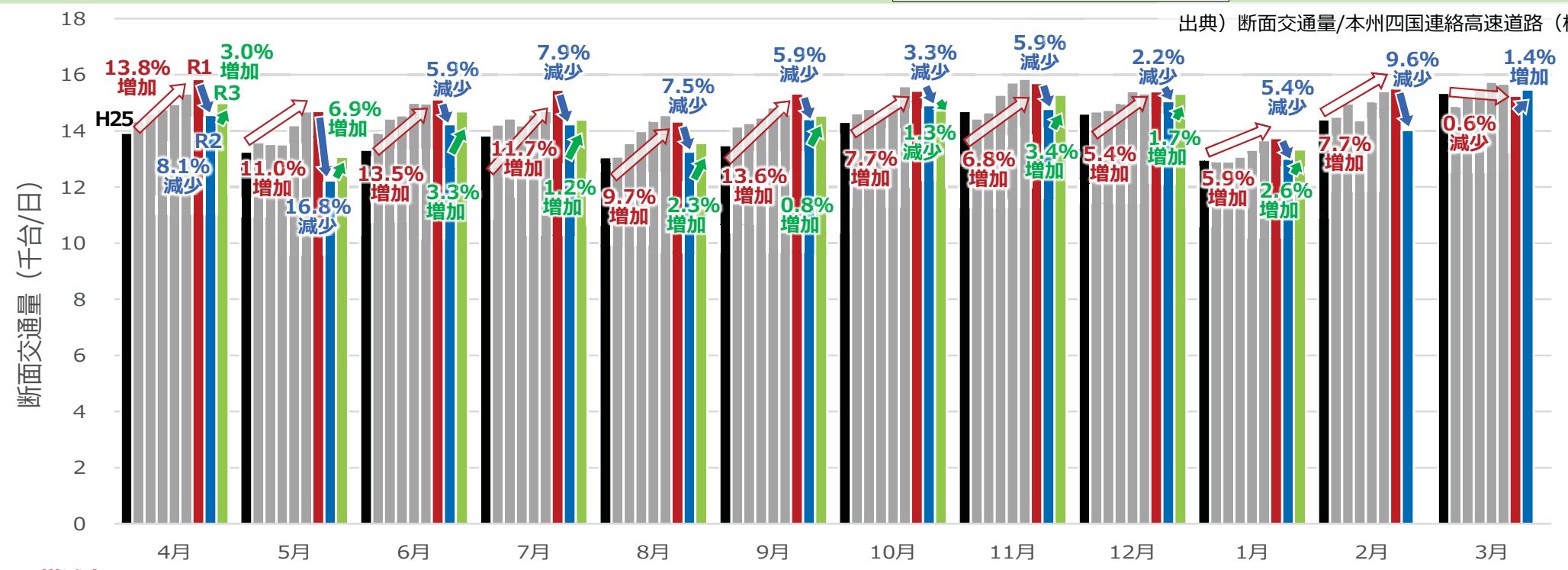
2020年度



2021年度



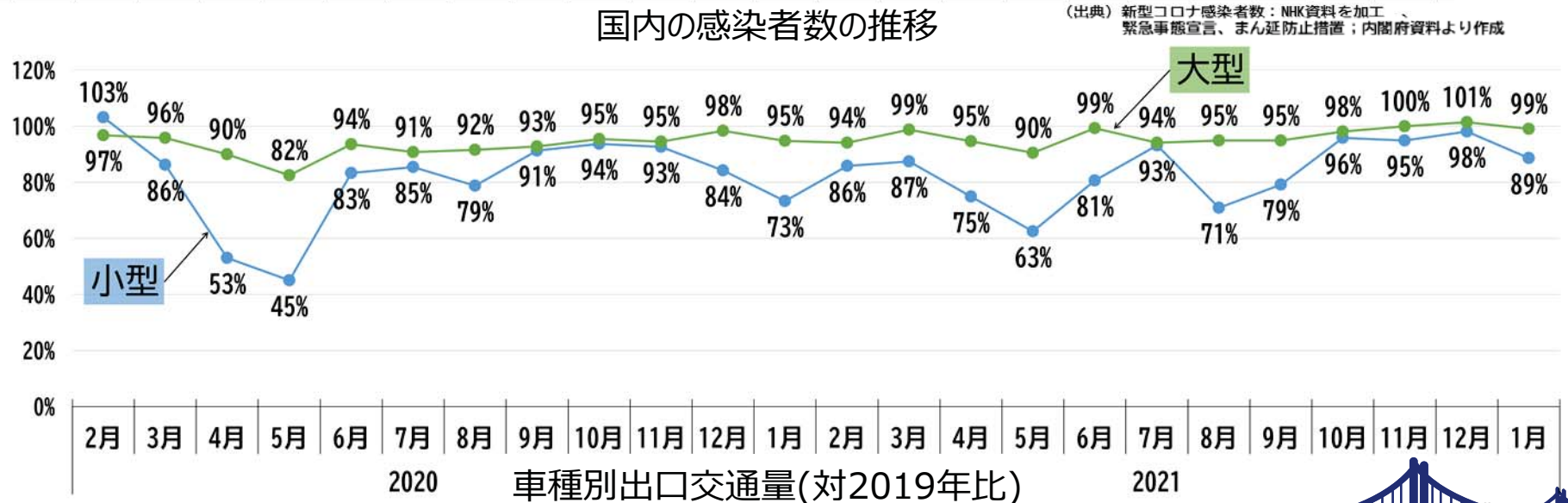
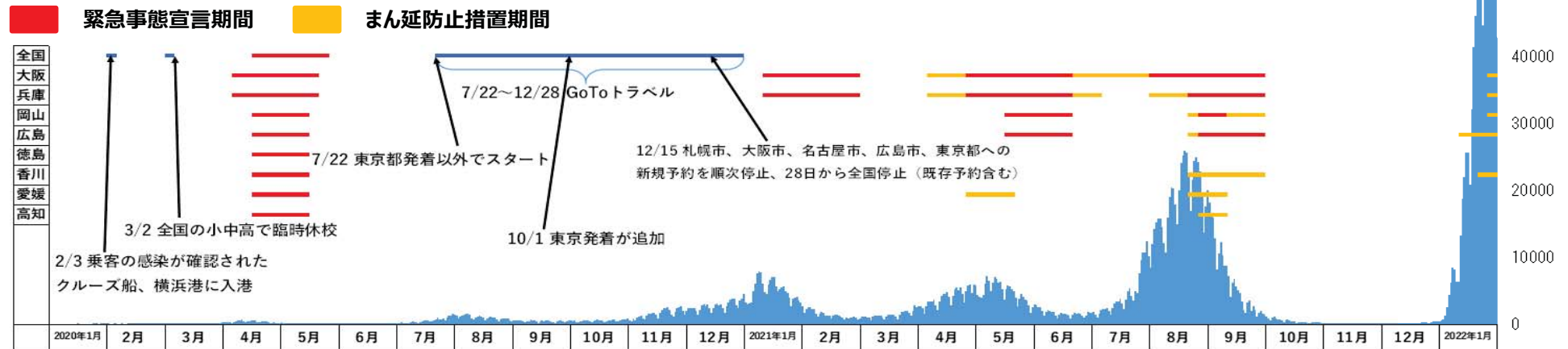
出典) 断面交通量/本州四国連絡高速道路(株)



R1比R3 増減率
大型車

コロナウイルスによる交通量への影響

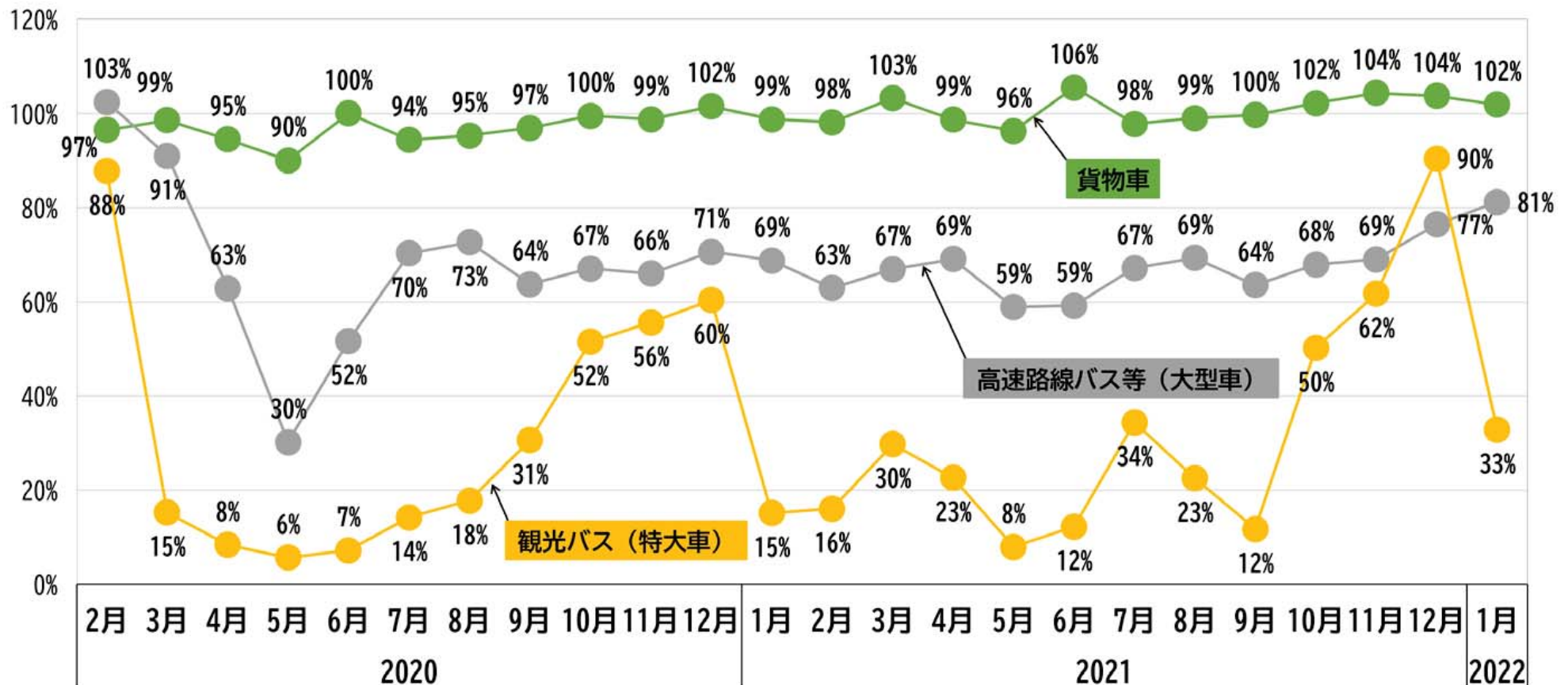
- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年4月～2021年3月までの出口交通量は前年同期比82%。
- ✓ 小型交通量は、2020年4月～5月の緊急事態宣言の影響で、4月、5月は対前年比でそれぞれ53%、45%まで低下。
- ✓ 6月以降は回復傾向となり、9月以降は横ばいとなっていたが、2020年12月以降の感染再拡大及び2021年4月の緊急事態宣言の影響により、年末年始、GW及びお盆において減少。
- ✓ 大型交通量は、2020年5月には82%となっていたが、その後は90%以上で推移。



大型車の車種別交通量への影響

- ✓ 貨物車の減少は1割以下であり、2020年10月以降は昨年とほぼ同等の水準。
- ✓ 観光バスは、2020年3月以降団体旅行客の減少に伴い、交通量が大幅に減少。
2020年8月以降は回復傾向にあったが、再度の緊急事態宣言により2021年1月は大幅な減少。
その後、2021.9.30の緊急事態宣言解除に伴い回復傾向となったが、オミクロン株の感染拡大から再び大幅な減少。
- ✓ 高速路線バスは、2020年4月からの緊急事態宣言解除後の7月以降回復傾向にあるが、2019年の水準には達していない。

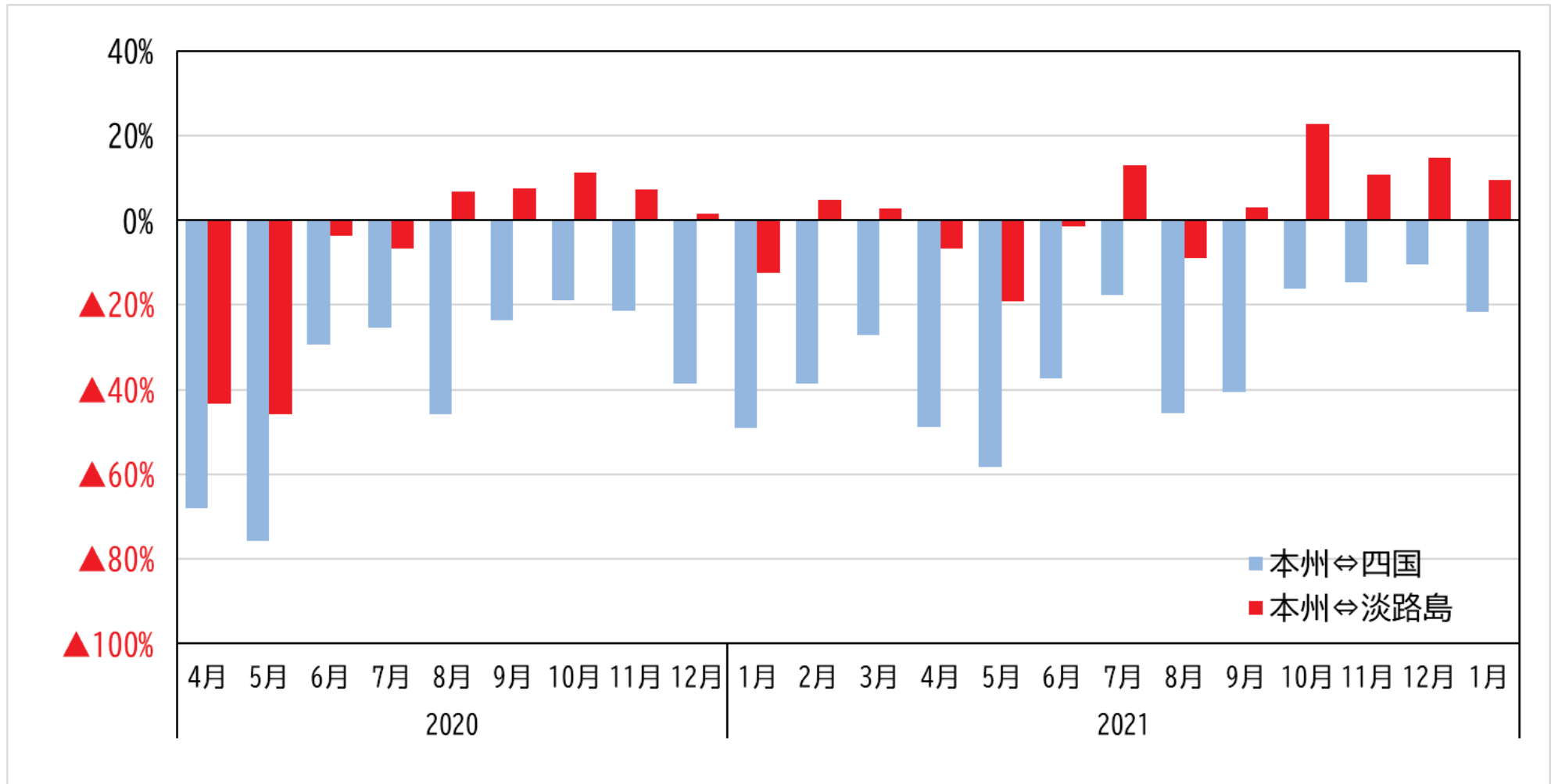
(ETC交通量)



大型車の車種別交通量(対2019年比)

小型車の発着地域別の影響(神戸淡路鳴門自動車道)

- ✓ 本州⇔四国では、新型コロナウイルスの影響が顕れ始めた2020年4月以降、対2019年比で減少傾向が続いている。
- ✓ 本州⇔淡路島では、2020年8月以降は対2019年を上回る状況が続いた。
2020年12月以降は、感染の再拡大により減少傾向となったが、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期間外においては対2019年を上回る状況であった。



小型車の発着地域別交通量（対2019年比）

- 本四道路の交通量は、コロナ禍の影響により減少。交通量の減少は2020年3月から確認でき、最も減少していたのは最初の緊急事態宣言が発令された2020年5月で対前年比約50%。
Go To トラベルキャンペーン等の影響もあり、回復傾向を示したが、その後も感染拡大により以前の水準には至っていない。
- こうした状況のなか、コロナ禍における交通量減少の傾向及び交通量の回復基調について、本四道路の利用車両の傾向把握をすることとした。
- 車両の走行履歴が把握できるETCデータに着目し、本四道路を利用する車両を独自に利用目的別に分類し検討を行った。

○ E T Cデータを用いることで、本四道路の利用特性について詳細に把握することが可能。



利用車両を「業務」、「生活」、「観光帰省」の3つの目的別に分類する方法を検討。

E T Cデータサンプル

入口路線	入口 I C	出口路線	出口 I C	利用車種	入口(月)	入口(日)	入口(時)	入口(分)	出口(月)	出口(日)	出口(時)	出口(分)	車載器ID	ナンバープレート情報
3	281	3	275	411	2	5	9	34	2	5	9	58	****	*****
3	273	3	272	541	1	31	23	38	1	31	23	40	****	*****
1	702	2	564	150	1	31	21	39	1	31	23	40	****	*****
3	267	3	270	411	1	31	23	40	1	31	23	40	****	*****
8	783	1	544	144	1	31	22	42	1	31	23	40	****	*****
3	273	3	272	550	1	31	23	39	1	31	23	41	****	*****
3	281	3	269	550	1	31	23	5	1	31	23	42	****	*****
2	564	2	557	130	1	31	23	21	1	31	23	42	****	*****

入口・出口の
路線・料金所

利用車種

料金所通過日時

車載器ID

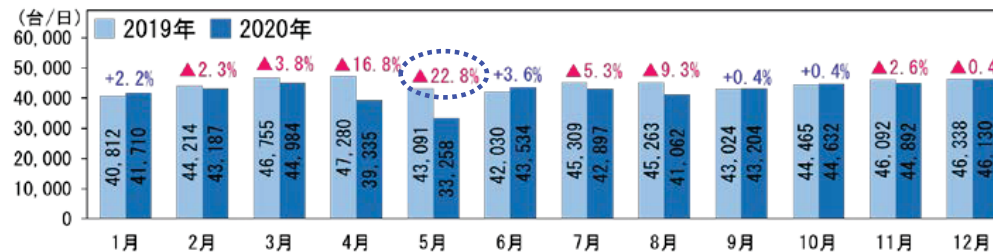
○利用目的の分析にあたっては、E T Cデータと利用頻度により分類を行う。

分類方法は、利用車種分類、利用頻度、利用区間等に応じ、「業務」、「生活」、「観光帰省」の各目的分類※を行った。

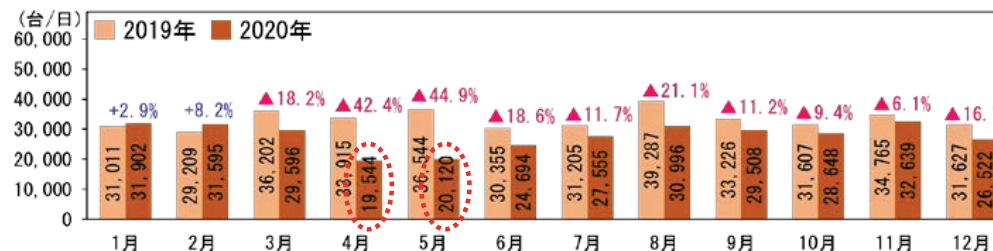
○各利用目的別交通量のコロナ禍による影響について

- ✓ 「業務」：5月の対前年比減少率が3分類の中で最も小さい。下半期にかけて前年と同水準に回復。
→コロナ禍による影響は最も小さい。
- ✓ 「生活」：4月と5月の減少は大きい、下げ止まっている。
→コロナ禍においても、最低20,000台/日程度の利用が想定される。
- ✓ 「観光帰省」：5月の対前年比減少率が3分類の中で最も大きく、8月も減少率は大きい、9月～11月にかけてGOTOキャンペーンにより改善傾向を示したものの、12月に再び減少。
→コロナ禍による影響が最も大きい。

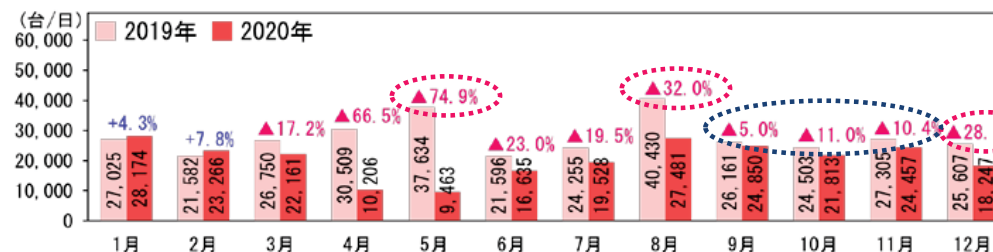
業務



生活



観光帰省



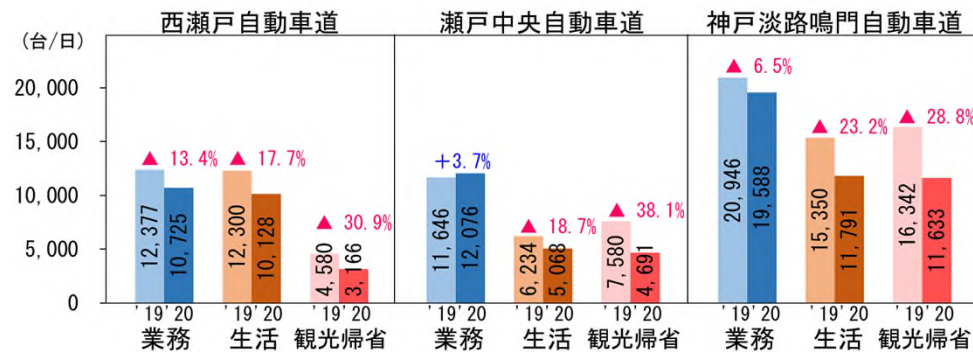
※目的分類について

例えば、「観光帰省」目的の場合、月3回までの頻度で利用している車両を抽出し、該当車両のうち、本州⇄四国間もしくは、本州・四国⇄島しょ部を利用している車両を観光帰省目的とした。

このように利用頻度および利用区間から目的別に区分。

○各路線毎の利用目的別交通量の特徴について

- ✓ 瀬戸中央自動車道 : 3路線のなかで、「業務」の占める割合が最も大きい。
- ✓ 西瀬戸自動車道 : 3路線のなかで、「生活」の占める割合が最も大きい。
- ✓ 神戸淡路鳴門自動車道 : 3路線のなかで、「観光帰省」の占める割合が最も大きい。

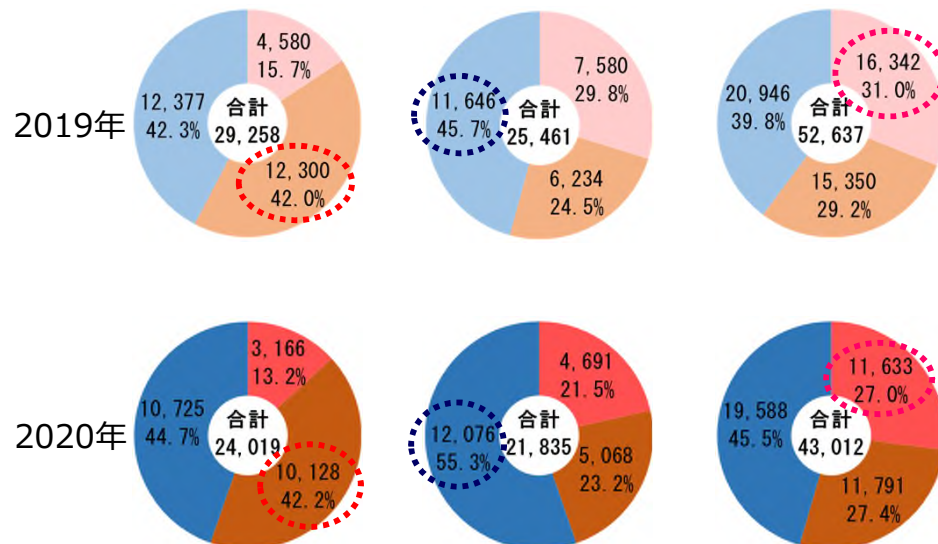


○分析結果について

コロナ禍における利用目的別による交通量の分析結果として、各目的別及び各路線毎の交通量への影響について特徴が確認できた。

以上を踏まえ、次のことが考えられる。

コロナ禍により減少した交通量を回復させるためには、特に「観光帰省」の交通量を回復させることが重要。



各県境断面 大型車・小型車別 対2019年比(曜日合わせ、トラン)

本四高速道路は、休日交通量が平日交通量より多い特徴を有するが、2019年比の推移を見ると、特に休日の小型車の減少が目立っている。さらに昨年末以降、オミクロン株による感染急拡大もあり、交通量は再び低調となっている。

